

【別紙】令和８年度 被災地視察の概要

北九州市教育委員会

1 目的

本視察は、文部科学省委託「学校安全総合支援事業（災害安全）」の一環として実施するものです。

北九州市教育委員会では、児童生徒が主体となる防災・減災教育を推進し、災害時に「自分の命は自分で守る」ことができる力を育むとともに、「守られる人」ではなく「守る人」として主体的に行動できる児童生徒の育成を目指しています。

また、児童生徒が将来の北九州市における地域防災の担い手となることを目標に、防災・減災教育を推進するとともに、その成果や取組を広く発信し、市内各学校における防災・減災教育のさらなる充実につなげます。

本視察では、東日本大震災の被災地である宮城県女川町及び岩手県釜石市を訪問し、復興まちづくりや防災教育について学び、その学びを北九州市の防災・減災教育へ還元します。

2 内容

【7月29日（水）宮城県女川町】

住宅地の高台移転や土地利用の工夫など、復興まちづくりについて学びます。

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 村江史年氏によるフィールドワークを実施します。

【7月30日（木）岩手県釜石市】

東日本大震災の教訓や防災教育、復興の歩みについて学びます。

いのちをつなぐ未来館 名誉館長（元釜石市立釜石小学校長）加藤孔子氏の案内により、防災教育の実践について学びます。

【7月31日（金）宮城県仙台市】

震災遺構である荒浜小学校を見学し、校舎に刻まれた津波の脅威と、当時の人々がどのように命をつないだのかを学びます。

3 参加者

- 推進モデル校（藤木小、筒井小、門司中、横代中）の児童生徒と教職員
- 推進アドバイザー 北九州市立大学 准教授 村江 史年 氏
- 北九州市教育委員会

4 北九州市と釜石市とのつながり

北九州市と釜石市は「鉄のまち」としての歴史的なつながりを有しています。

また、令和２年度より北九州市防災減災教育アドバイザーとして、元釜石小学校長加藤孔子先生をお迎えしたことをきっかけに、釜石市との防災減災教育の交流が始まりました。毎年、釜石市の学校との「防災・減災オンライン交流会」を実施し、参加校における防災・減災の取組の成果や課題、今後の展望、学校や地域の紹介等について交流を行っています。令和７年度は、釜石市立甲子小学校と北九州市立青葉小学校、藤木小学校、石峯中学校が交流を行いました。